

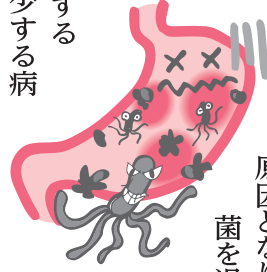
**ピロリ菌
と貧血**

Q ピロリ菌は貧血とも関係があると聞きますが、詳しく教えてください。

A

ピロリ菌は胃に好んで感染し、さまざまな

病気を引き起こす細菌で、萎縮性胃炎や胃潰瘍、十二指腸潰瘍の主な原因です。また、胃がんや特殊な胃リンパ腫の発症を助長します。



一方、貧血は酸素を運搬する赤血球が減少する病態の総称で多数の原因があります。その中で最も多いのが、鉄の欠乏により起こる鉄欠乏性貧血です。鉄は食物中に含まれており、十二指腸や小腸で吸収されます。胃にピロリ菌が感染すると、胃の粘膜が炎症や萎

縮を起こし、増殖する時には鉄が消費されることから、鉄の吸収が低下して鉄欠乏を起こします。さらに、胃・十二指腸潰瘍から出血を起こすことがあり、鉄欠乏の原因となります。ピロリ菌を退治する治療法は確立しており、高率に除菌が可能です。鉄欠乏性貧血を

繰り返す場合は、胃の検査とともに調べてもらうとよいでしょう。



高知高須病院
副院長 水口 隆さん

高知市大津乙2705-1 TEL088-878-3377 〈腎臓内科・糖尿病内科〉